令和6年度　小平市立小平第九小学校　学校評価報告書

学校教育目標　○よく考えすすんで学ぶ子　◎助け合うやさしい子　○心も体もたくましい子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　誰にでもやさしく、誰からも愛される学校　～一人を大切に、みんなを大切にする学級、学校づくりを通して～

【目指す児童・生徒像】自分も相手も大切にし、自分の成長を実感できることによって、みんなの笑顔を輝かせられる児童

【目指す教員像】　働き方改革を行いながら、やりがいをもち、児童の成長のために笑顔で学び合い高め合える教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

学校評価のあいさつ、居心地の良い学校づくりの項目を中心に、各項目において保護者・地域の方から概ね良好な回答を得ることができた。今年度も「誰にでも優しく、誰からも愛される学校」の実現のため、一人を大切に、みんなを大切にする学級、学校づくりを目指して教育活動を推進していく。

小平第三中学校、小平第二小学校、鈴木小学校とともにすすめている小中連携教育の取組内容を各種通信、ホームページ等を活用し、保護者や地域に伝えていく必要がある。

	具体的方策	第1回評価 取組指標	第1回評価 成果指標	成果・課題・対策	第2回評価 取組指標	第2回評価 成果指標	学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
学力向上	・九小スタンダードに基づいた環境整備とOJTによる授業改善を推進する。 ・年3回の読書旬間で、読み聞かせや読書マラソンなどの取り組みを推進する。	3	4	・図書室の積極的活用、図書支援員による読み聞かせ、図書委員会集会の開催、読書ボランティアによる「おはなし会」の実施により、読書習慣が定着している。高学年になると、図書室の活用機会が減り、図書室活用の機会が減ってしまう傾向があるので、計画的な活用を進めていきたい。	4	4	・毎週の図書の時間をしっかりと確保し、読書マラソンカードを活用しながら継続的に活動している。	・読書マラソン推進の取組を継続し、各学期の「読書旬間」を次年度も設ける。児童は進んで読書をしているが、本のジャンルが偏る傾向があるため、国語や図書の時間、朝読書の時間などを使って、幅広く読書ができる環境をつくる。
	・OJTによる授業改善を推進する。 ・児童が成長を実感し、楽しいと感じられる授業を展開する。 ・ICTの利活用を推進する。	3	4	・全国学力・学習状況調査「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」「英語の勉強は大切だと思いますか」の項目で90%以上の児童が肯定的回答をした。この児童の思いを授業展開の工夫や対話を活用した学習を通して、さらに伸ばしていきたい。	4	4	・児童の書く力の低下という声を聞くことがあり、対策が必要だと感じている。 ・児童が自信をもつようになると、児童の自己評価が上がるのではないか。	・保護者アンケート「学校はこどもが授業を楽しめるよう工夫している」では、90%以上の肯定的回答があった。校内のOJT研修を今後も活用し、教員の授業力向上を図る。それにより、児童の学力向上と自己肯定感の向上につなげていく。
健全育成	・あいさつ運動を推進する。 ・校内研究を推進し、年間4回の研究授業を行う。	4	4	・登校時のあいさつボランティアの方々の協力があり、校内・校外ともにあいさつができるようになってきている。引き続き「あいさつ名人『先に笑顔で何度でも』」の取組を継続していきたい。	4	4	・挨拶を返してくれる児童が多く、学校での指導が感じられる。 小学校では、社会性や自己肯定感を高める活動が大切だと感じる。「自分は自分でよい」とたくさん感じてほしい。	・次年度もあいさつ運動の活動期間を広げたことで、たてわり活動を通した児童同士のあいさつや関わり合いの深まりが見られた。「あいさつ運動」の取組について、学校便り、ホームページなどを通じて定期的に発信し、保護者の参加を求めていけるようにしたい。
	・年3回のいじめ防止授業と児童アンケートの確実な実施を行う。 ・各学級での話合い活動と縦割り班活動を確実に実施する。	4	4	児童アンケート「相手のことを考えて行動したり、仲良く活動したりすることができる」では、肯定的回答が85%を越えている。引き続き、各学習での話合い活動や高学年をリーダーとした縦割り班の充実を図る。	4	4		・次年度も、令和5年度人権尊重教育推進校としての研究成果をレガシーとして継続し、伝えあう活動や認め合う活動を重視する。 ・道徳の授業の充実を図ると共に、年3回のいじめ防止授業を確実に実施し、児童の人権に関する知的理解を促し、人権感覚を養う。
健康・体力づくり	・体育委員会を中心とした体力アッププロジェクトを学期に1回実施する。 ・たてわり遊びやなわとび等の体育的な集会を年間10回程度実施する。	3	3	・体力テスト実施前に、体育委員会による体力アッププロジェクトを体育館で実施した。 ・高学年の移動教室が一学期にあり、たてわり班活動が2回しかできなかった。中休みや昼休みの外遊びを呼びかけ、日常的に体を動かす心地よさを味わえるようにしていきたい。	4	3	・本校は、校庭が広く環境が恵まれている。高学年女子になると休み時間を室内で過ごす割合が増えるが、各自に合ったリフレッシュの仕方を考えてあげることも必要である。	・各学期の体力アッププロジェクトや体育委員会が企画したマラソン旬間、縄跳び週間など、休み時間を活用し、様々な取組を行うことができた。 ・たてわり遊びは、全児童が学年を越え、校庭で運動遊びをするよい運動機会となった。
	・栄養士による食育の授業、学校薬剤師による薬物乱用防止教室、養護教諭による保健指導を確実に実施する。 ・「早寝早起き朝ごはん」を推進する。	4	3	・栄養士や薬剤師との連携による食育や薬物乱用防止の授業を各学年1回以上実施する。 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の指導を毎月の全校朝会等で行うとともに各種の通信で啓発活動を行う。	4	3	・家庭の事情で朝ご飯を食べて登校しない児童もいる。引き続き、保護者に協力を呼びかけるとよい。	・児童アンケートの結果から、時間を守って生活でき、給食を残さずに食べていると感じている児童が80%を越えている。今後も食育の授業を通して、児童に食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにしていく。 ・「食育指導」の取組について、学校便り、ホームページなどを通じて定期的に発信していく。
地域連携	・地域の学習材を活用した授業を各学年で実施する。 ・ハッピー九など、地域のボランティアと連携した取組を実施する。	3	4	・学校支援サポーターの協力により、各学年で計画的に地域人材を活用した学習、ボランティアの支援を受けた活動に取り組むことができた。児童の学力定着や学習意欲の向上につながっているので、今後も協力体制を継続していく。	4	4	・ハッピー九の取組は、高齢者と児童が関わり合えるよい機会になっている。今後も継続できるようバックアップしたい。 ・保護者も地域住民である。できる範囲で地域との関わりがもてるようにしたい。	・図書、ハッピー九、学習支援、校外学習引率、水泳、学童農園、登校見守り、ミシン、放課後子ども、落ち葉掃き、動物の世話等、多岐にわたるボランティア支援を受け、教育活動を推進していくことができた。今後も、ボランティア支援を継続し、よりよい学校教育につなげていく。
	・年間3回の小・中連携の日で、校区の教職員と情報交換を行う。 ・あいさつ運動や部活動体験など、中学校と連携した取組を行う。	3	4	・第1回小中連携の日で、分科会に分かれ、校区の教員で様々な意見を交わし合った。そこでの学びを今後に生かし、連携しながら、児童のスムーズな中学校への進学につなげていきたい。 ・7月までの間に小中連携についての発信をすることができなかった。次年度は、各学期に小中連携の取り組みを発信できるようにしたい。	4	4	・学校は十分に頑張っている。こどもが家でどのように話をするのかは、保護者がどのようにこどもから話を引き出すかということも大切だと思われる。	・保護者アンケート「小中連携の推進」についての項目では、他の項目に比べ、「わからない」という回答が多い。ホームページ、学校だよりでの発信を継続することに加え、保護者会等での情報発信をし、小中連携した取り組みを伝えていく機会を増やしていく。
業務改善・働き方改革	・SSS・EAなどを活用し、一人一人が抱える業務を軽減する。 ・ペーパーレス化を推進し、児童の指導や教材研究の時間を確保する。	3	3	・SSS（スクールサポートスタッフ）との協力体制ができている。今後も効果的に活用したい。 ・ペーパーレス化に向け、進めている他校の取組情報を集め、本校に生かしていけるように進めている。	3	3	・ペーパーレス化が進んでいる。メール配信は、読み流しがあるかもしれないが、無くさないという大きなメリットがある。	・SSS・EAの活用により、事務作業量の減少、教材研究や児童と関わる時間の増加など、勤務の負担が軽減できていると考える教員が多い。引き続き、業務の重なりや担当の負担など、学校全体の業務を見直し、勤務環境の改善を図る。 ・1月から手紙のメール配信を開始することができた。